

令和7年度
千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会
報告書



千葉市教育委員会

目 次

はじめに	1
I 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の活動	2
II 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会設置の経緯	4
III 実践報告	
【中央区】	
寒川小学校ブロック	6
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して	
～園児と児童同士・職員同士の相互理解をより深めるための関わり合いを通して～	
【花見川区】	
畑小学校ブロック	8
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して	
～円滑な接続を実現するための相互理解に向けて～	
【稲毛区】	
小中台南小学校ブロック	10
テーマ：幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して	
～円滑な接続を実現するための交流を、子供・職員・保護者の視点から～	
【若葉区】	
千城台東小学校ブロック	12
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携目指して	
～教職員の相互理解を基盤とした、子どもたちの豊かな交流を～	
【緑区】	
土気小学校ブロック	14
テーマ：幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して	
～円滑な接続を実現するために～	
【美浜区】	
高浜海浜小学校ブロック	16
テーマ：幼・保・こ・小のよりよい交流と連携の在り方	
～職員同士や児童・幼児の相互理解を築く交流を目指して～	
IV 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の成果と課題	18
V 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会委員一覧	20

は じ め に

千葉市教育委員会学校教育部
教育指導課長 小石 伸一

近年、子どもたちを取り巻く社会は急激に変化しており、幼稚園や保育所、こども園等の幼児教育を担う者と小学校教育を担う者がそれぞれの課題を共有し、連携して子どもの育ちを支え、「生きる力」の基礎を育んでいくことはますます重要となっています。また、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続することで、子どもの発達や学びの連続性を保証することが求められています。

本市では、昭和 63 年から「幼・保・小関連教育推進協議会」を立ち上げ、推進指定校を中心とする幼・保・こ・小の連携や協力体制の整備を進め、子どもたちの実態に応じた様々な交流活動を展開することで、着実に成果を上げてきました。

本年度は、推進指定校を中心に、様々な交流活動が実施されました。市内12の推進指定校とそれぞれの小学校の近隣にある37の幼稚園や保育所・保育園、認定こども園と連携し、子ども同士の様々な交流活動や職員同士の参観・情報交換等、積極的な取組が報告されました。幼児教育と小学校教育との接続は、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達の段階を踏まえた教育活動を充実させることが重要です。各学校においては、本報告書にまとめられている実践を参考にし、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を視野に入れた教育課程の編成や、学びの特性を踏まえた指導計画の作成に取り組んでいただければ幸いです。今後も、本事業の推進が、子どもたちの健やかな成長に結び付くことを願っております。

結びに、本事業に御協力いただいた幼稚園、保育所・保育園、認定こども園、小学校の皆様、協議会委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和 8 年 3 月

I 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の活動

1 今年度の取組について

(1) 推進指定校・幼稚園・保育所等の数

- ・推進指定校 12校
- ・幼稚園 7施設 ・保育所 3施設 ・保育園 25施設 ・認定こども園 2施設

(2) 取組状況について

①各行政区のテーマ

番号	行政区	テーマ
1	中央	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～園児と児童同士・職員同士の相互理解をより深めるための関わり合いを通して～
2	花見川	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するための相互理解に向けて～
3	稲毛	幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するための交流を、子供・職員・保護者の視点から～
4	若葉	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携目指して ～教職員の相互理解を基盤とした、子どもたちの豊かな交流を～
5	緑	幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して ～円滑な接続を実現するために～
6	美浜	幼・保・こ・小のよりよい交流と連携の在り方 ～職員同士や児童・幼児の相互理解を築く交流を目指して～

②幼・保・こ・小関連教育推進協議会での主な協議内容

- ・幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要についての共通理解
- ・今年度の取組と実施計画について
- ・子供の交流活動の在り方について
- ・教職員の授業参観・合同研修会について
- ・幼・保・こ・小連携の現状と課題について
- ・各校、各園の取組について
- ・接続期のカリキュラムによる連携（学びの連続性）について
- ・家庭との連携（学校生活の見通し・不安の解消）について
- ・児童や年長児の様子についての情報交換

2 令和7年度 幼・保・こ・小関連教育推進校一覧及び協議会の実施

◎印は幹事校

行政区	小学校	幼稚園・保育所・認定こども園	協議会	交流等
	指定校名	参加園・所名	実施日	実施日
中央区	◎寒川小 新宿小	双葉幼稚園 新宿保育所 神明保育所 いろは保育園 キートスチャイルドケア新田町 K's garden 蘇我保育園 寒川保育園 すえひろ保育園 千葉こども保育園 にじのいろ保育園 ひなたぼっこ保育園 ピラミッドメソッド千葉保育園 ほしのご保育園 ルーチェ保育園千葉新田町	9/17	5/ 8. 9 9/11. 12 10/15～24 11/26 12/18 1/15. 16
花見川区	◎畑小 瑞穂小	新検見川幼稚園 かえで保育園まくはり	7/15	7/15 8/22 11/13
稲毛区	◎小中台南小 小中台小	小中台幼稚園 園生幼稚園 いなげこどもの木保育園 稲毛保育園 キートスチャイルドケア園生町 KORU 保育園 ししの子保育園 チャイルドガーデン保育園 ひだまり保育園	7/25	8/7 12/15 1/13
若葉区	◎千城台東小 千城台みらい小	千城東幼稚園 へいわ幼稚園 ちしろ保育園 千城台東認定こども園	6/23	7/17 7/22 7/28 11/12 12/3
緑区	◎椎名小 扇田小	キートスチャイルドケアおゆみ野南 グレース保育園 ふたば保育園	7/10	11/27 12/12
美浜区	◎稲毛第二小 真砂五小	真砂幼稚園 稲毛海岸保育所 若梅こども園	7/4	7/17 7/23 11/12 11/18 12/16
計	12校	37施設		

II 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会設置の経緯

1 推進協議会設置の経緯

千葉市幼・保・小関連教育推進協議会の設置の経緯概要は以下のとおりである。

- | | | |
|----------|------|--|
| ・昭和 59 年 | 7 月 | 幼・保・小についての教育懇談準備会（市教育センター）
（幼・保・小の教育懇談会の運営について） |
| ・昭和 59 年 | 9 月 | 第 1 回 教育懇談会
（幼・保・小の関連教育についての教育懇談会の在り方） |
| ・昭和 60 年 | 2 月 | 第 2 回 教育懇談会
（小学校から見た幼・保関連教育の実態と今後の課題） |
| ・昭和 60 年 | 10 月 | 第 3 回 教育懇談会
（幼・保・小関連教育に関する保育所の考え方） |
| ・昭和 61 年 | 10 月 | 第 4 回 教育懇談会
（幼・保・小の関連教育についての教育懇談会の実施にむけて） |

(1) 昭和 61 年度までの問題点の指摘

- ①幼稚園・保育所の教育内容は、それぞれに特色があるが、未整理である。
- ②幼・保・小の交流は実施されているが限られており、実施できない理由として行事の調整・活動内容・交流する幼稚園や保育所との連携の在り方等に課題があると思われる。
- ③幼・保・小で実施する教育内容を理解しての計画的な交流が実施されていない。

(2) 問題点の解決に向けた手立ての提案

- ①教育委員会に組織を作ること、交流活動を推進する。
- ②各ブロック（中学校単位）に交流組織を作ること、交流を具体化する。
- ③幼・保・小の関連についての情報を交換し、検討する推進委員会を設置する。
- ④幼・保・小の関連に伴う諸活動が、円滑に運営されるように予算措置を講ずる。

(3) 昭和 63 年 6 月……幼・保・小関連教育推進協議会が設置される。

年 2 回幼・保・小関連教育推進協議会が開催される。

◇設置趣旨

- ①幼・保・小の一貫した指導により、生活・学習上の自立への基礎を養う。
- ②幼・保・小の一貫した指導により、心身共に健康で調和のとれた子供の育成を図る。

◇協議会の内容

- ①幼・保・小における指導内容に関する事項の検討をする。
- ②幼・保・小の教職員の研修に関する事項の検討をする。

2 推進指定校の経緯

昭和 63 年度から幼・保・小関連教育推進校の指定が始まり、東部・西部Ⅰ・西部Ⅱ・南部・北部の 5 ブロックそれぞれの中学校区毎に指定をした。その後、全市の小学校を指定した。平成 4 年度から千葉市が政令指定都市になり、行政区単位で推進校を指定するようになった。

【表：過去 10 年間の推進指定校（小学校）】

区 年度	中央	花見川	稲毛	若葉	緑	美浜	幼稚園	保育所園	こども園
27	大巖寺 生浜東	畑 花園	あやめ台 山王	北貝塚 小倉	泉谷 おゆみ野南	高洲 稲浜	12	13	1
28	生浜 生浜西	朝日ヶ丘 西小中台	轟町 都賀	若松台 若松	金沢 椎名	真砂東 稲毛第二	11	16	
29	登戸 院内	瑞穂 長作	緑町 弥生	白井 更科	越智 大木戸	高洲第一 幕張西	12	9	
30	弁天 新宿	花見川第三 柏井	千草台東 草野	千城台北 千城台西	誉田東 誉田	海浜打瀬 打瀬	7	11	1
R 1	星久喜 川戸	作新 花見川	千草台 宮野木	千城台南 坂月	大椎 あすみが丘	磯辺 磯辺第三	13	17	
R 2	鶴沢 本町	検見川 幕張南	小中台 園生	千城 桜木	扇田 土気南	真砂第五 幸町第三	7	17	2
R 3	都 宮崎	こてはし台 花島	あやめ台 山王	みつわ台北 みつわ台南	有吉 小谷	高洲第四 幸町	17	13	
R 4	生浜東 生浜西	幕張 上の台	稲毛 稲丘	源 都賀の台	平山 泉谷	真砂東 真砂西	12	25	1
R 5	松ヶ丘 仁戸名	さつきが丘東 さつきが丘西	都賀 千草台東	小倉 北貝塚	大木戸 越智	高洲 高洲第三	15	17	2
R 6	蘇我 大森	横戸 犢橋	弥生 緑町	若松 若松台	土気 あすみが丘	高浜海浜 磯辺	12	13	1

Ⅲ 実践報告

中央区

1 幹事校 千葉市立寒川小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～園児と児童同士・職員同士の相互理解をより深めるための関わり合いを通して～

2 協議会

(1) 日時・会場 9月17日(水) 於：寒川小学校

(2) 参加者 新宿小学校2名 寒川小学校2名

キートスチャイルドケア新田町2名 ケーズガーデン蘇我1名

寒川保育園1名 新宿保育所2名 神明保育所2名

千葉こども保育園1名 にじのいろ保育園1名 双葉幼稚園2名

(3) 協議内容

①昨年度までの千葉市や中央区の実践事例と成果と課題

②中央区のテーマの確認・交流時期と内容の確認

③入学接続時に取り組んでいる活動の現状と課題の共有

3 実践事例

<実践事例1>職員同士の相互参観・学級懇談会の参加等隣接保育所との交流

(1) 日時・会場 於：新宿小学校・新宿保育所

①新宿小参観日 : 5月8日(木)、9日(金) 9:15～11:10

9月11日(木)12日(金) 9:15～11:10

②新宿保育所参観日:10月15日(水)～24日(金)9:10～16:30(12:30～14:30除く)

(2) 参加者 新宿小職員38名・新宿保育所職員他20名

(3) 活動内容

①活動のねらい

参観を通して、未就学児と小学生の発達段階に応じた様子の違いや教科に結び付くような素地的活動、学習活動にどのような目的があるか等を学び、それぞれの教育活動に生かす。

②活動の内容

ア 新宿小学校参観は、1・2年生中心に、児童の学習活動の様子を自由に見学する。

イ 新宿保育所参観は、設けた期間中、それぞれの職員が教務主任と日程調整をし、自由に見学する。(30分程度)

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○保育所の活動や経験が、1・2年生の生活や学習(特に生活科)につながっていることがわかり、系統性を一つ一つの学習活動で意識することが増えた。

●相互参観後、すぐに情報交換まで行うことができれば、更に充実したものとなった。

<実践事例2>年長児と1年生との交流会・年長児による学習参観

(1) 11月26日(水) 9:10～11:10【交流会】 於：新宿小学校体育館

1月15日(木)、16日(金)10:00～11:10【学習参観】 於：新宿小学校1～5年教室

(2) 新宿保育所・千葉こども園・ひなたぼっこ保育園・ピラミッドメソッド千葉保育園・キートスチャイルドケア新田町・神明保育所・いろは保育園・ルーチェ保育園千葉新田町・ほ

しの子保育園・双葉幼稚園年長児（110名）引率職員（18名）

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 1年生との交流や学習参観を通して親睦を深め、小学校入学への期待を高める。
- イ 交流会の企画運営、年長児との交流を通して、上学年生としての自覚や相手を思いやる気持ちを醸成できるようにする。



【秋あそびの様子】

②活動内容

- ア 生活科「きせつとなかよし」の学習として、秋の材料を使ったおもちゃで遊ぶ。
- イ 年長児が、小学校の授業を引率職員と一緒に参観し、様子を知る。

(4) 成果と課題（成果○ 課題●）

- 交流を通して、年長児の来年度入学への不安感が軽減されたり、1年生が自身の成長に気付くことができたりした。
- 行事が重なる時期の設定だったため、小学校の職員の人員が不足し、活動する様子を多くの職員で参観することができなかった。

<実践事例3>年長児と1年生の遊び交流会・年長児と5年生の学校探検

- (1) 日時・会場 12月18日（木）【交流会】 9:25～10:15 於：寒川小学校1年教室
【学校探検】 10:25～11:05 於：寒川小学校校舎内

- (2) 参加者 寒川保育園 すえひろ保育園 にじのいろ保育園
K's garden 蘇我保育園 年長児・年中児（60名） 引率者（13名）

(3) 活動内容

①活動のねらい

年長児は交流を通して、親睦を深め、入学への期待を高める。小学生は年長児との交流を通して、上級生としての自覚と、相手を思いやる気持ちをもつことができるようにする。

②活動の内容

- 【交流会】1年生が年長児を招待し、生活科で作成したおもちゃでの遊びを通して交流する。
- 【学校探検】5年生と年長児がグループに分かれ、校内を案内しながら探検する。

(4) 成果と課題（成果○ 課題●）

- 小学生は、年長児に楽しんでもらえるよう、自発的に様々な活動を工夫したり、優しく声かけをしたりした。また、1年生は上級生として、5年生は最高学年への自覚が芽生えていた。
- 感染症により参加できない年長児が多かったため、実施時期は検討が必要である。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 年長児と児童、職員同士の交流活動を行うことで、幼・保・こ・小の相互理解が進み、スタートカリキュラム等の次年度教育課程編成の参考にすることができた。
- 年長児と小学生が交流することにより、来年度入学を迎える年長児や幼児教育施設職員の不安感を軽減し、入学への期待感を高めることができた。

(2) 課題

- ▲多くの職員が関われる活動にしたり、活動後すぐに情報交換を行えたりできるように、より効果的な実施時期・方法を前年度教育課程検討の段階で決めていくことが必要である。

花見川区

1 幹事校 千葉市立畑小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～円滑な接続を実現するための相互理解に向けて～

2 協議会

- (1) 日時・会場 7月15日(火) 於：畑小学校
(2) 参加者 畑小学校2名 瑞穂小学校1名
新検見川幼稚園1名 かえで保育園まくはり(以下かえで保育園)2名
(3) 協議内容
①幼・保・こ・小関連教育推進事業の趣旨を踏まえた、花見川区のテーマの確認
②スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムの確認と共有
③児童や年長児の様子についての情報交換
④各小学校と幼稚園(保育園)との交流の時期と内容の相談

3 実践事例

<実践事例1>幼稚園・保育園職員の小学校参観

- (1) 日時・会場 7月15日(火) 13:25～14:10 於：畑小学校
(2) 参加者 畑小学校2名 瑞穂小学校1名 新検見川幼稚園1名 かえで保育園2名
(3) 活動内容
①活動のねらい
小学校の発達段階に応じた授業の様子を見てもらい、アプローチカリキュラムの作成や入学に向けた取り組みに生かしてもらえるようにする。
②活動内容
協議会の前に、幼・保の職員が学習の様子を参観し、意見や感想を交流し合った。
(4) 成果と課題(成果○ 課題●)
○児童の実態や成長の様子を参観いただいたことで、幼・保の職員が小学校での生活や学習の様子についての理解を深め、入学に向けた取組の参考にすることができた。
●日程調整が難しく、複数の幼・保の職員と協議会を行うことができなかった。

<実践事例2>小学校職員の幼稚園参観

- (1) 日時・会場 8月22日(金) 9時～11時30分 於：新検見川幼稚園
(2) 参加者 畑小学校2名 新検見川幼稚園1名
(3) 活動内容
①活動のねらい
幼稚園の教育活動を見学することで、年長児の実態や職員とのやり取りの様子や課題を把握し、小学校での指導に生かす。
②活動内容
登園から給食までの教育活動(年少・年中・年長)の様子を参観し、情報交換をする。
(4) 成果と課題(成果○ 課題●)
○年長児を中心に実態を把握することで、小学校でのスタートカリキュラムの作成や指導の参考となった。また、相互に指導上大切にしていること等も共通理解することができた。

●一部の職員だけでなく、多くの職員が参観や交流をもてるように計画していけるとよい。

<実践事例3> 1年生と年長児との交流

(1) 日時・会場 11月13日(木) 10:00~11:30 於:瑞穂小学校・畑小学校

(2) 参加者 瑞穂小学校:1年生31名、職員4名、かえで保育園12名、職員3名
畑小学校:1年生39名、職員4名、新検見川幼稚園22名、職員2名

(3) 活動内容

①活動のねらい

ア 生活科「きせつとなかよし」の学習として、年長児との交流の企画や運営、活動などを通して、自主性や協調性を養う。(1年生)

イ 1年生との交流活動を通して、入学に対する期待を膨らませる。(年長児)

②活動の内容

ア 会の司会を1年生が務め、一緒に歌ったり、年長児にインタビューをしたりした。

イ 1年生と年長児がペアになり、学校を案内したり、一緒に遊んだりした。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○年長児が楽しめるような遊びを考えたり、優しく接しようとしたりする場面が見られた。

○年長児は、1年生と楽しく活動を行い、入学への期待を高めることができた。

●製作を行うブースは時間がかかってしまったり、全てのブースを回れ切れなかったりする様子が見られたため、内容や活動時間を検討していく必要がある。

<実践事例4> 5年生と年長児との交流

(1) 日時・会場 11月13日(木) 11:30~11:45 於:瑞穂小学校・畑小学校

(2) 参加者 瑞穂小学校:5年生6名、職員1名、かえで保育園12名、職員3名
畑小学校:5年生2名、職員4名、新検見川幼稚園22名、職員2名

(3) 活動内容

①活動のねらい

ア 年長児との関わりで、リーダーシップや責任感を養う。(瑞穂小)

イ 製作した雑巾をプレゼントすることで、最高学年に向けての自覚をもつ。(畑小)

②活動の内容

ア 5年生と年長児が顔合わせを行い、学校の中を案内した。(瑞穂小)

イ 家庭科で学習したことを生かして雑巾を製作し、年長児にプレゼントした。(畑小)

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○学校を案内したり、製作した雑巾をプレゼントしたりしたことで、高学年としての責任感を養うことができた。

●今後どのような交流ができるか検討していけるとよい。



4 成果と今後の課題

(1) 成果

○小学校や幼稚園・保育園の様子を参観し合い、職員同士が交流をもつことで接続を意識し、連携を強めることができた。

○小学校児童と年長児が交流することで、次年度に向けての自覚や期待につながった。

(2) 課題

●交流を再開したばかりなため、実践を積み重ね、よりよい交流の仕方を検討していきたい。

稲毛区

1 幹事校 千葉市立小中台南小学校

幼・保・こ・小のよりよい交流と連携を目指して
～円滑な接続を実現するための交流を、子供・職員・保護者の視点から～

2 協議会

- (1) 日時・会場 7月25日(金) 13:30～14:30 於：小中台南小学校
- (2) 参加者 小中台小学校2名 小中台南小学校3名 チャイルドガーデン保育園2名
小中台幼稚園3名 園生幼稚園1名 キートスチャイルドケア園生町1名
- (3) 協議内容
- ① 幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要及び経緯についての共通理解
 - ② 幼児教育、小学校教育の現状と課題についての共有
 - ③ 今年度のテーマ、実施計画について意見交換
 - ④ 連携校と園との情報交換

3 実践事例

<実践事例1> 小中台南小学校の教員による幼稚園と保育園の参観

- (1) 日時・会場 8月7日(木) 9:00～11:30 於：小中台幼稚園 チャイルドガーデン保育園
- (2) 参加者 小中台南小学校フレッシュ研メンバー6名
- (3) 活動の内容
- ①活動のねらい
 - ア 幼児教育の実際を見学することで、幼児の発達段階（運動面、生活面、社会性、道徳性等）や特徴を知り、それに対する教職員の対応の仕方を学ぶ。
 - イ 幼稚園や保育園で行われている教育活動、環境づくりについて知る。
 - ②活動の内容
 - ア 日常の幼稚園と保育園の生活の様子を見学する。
 - イ 見学や質問をして学んだことを職員で共有し、指導に生かせるように話し合う。
- (4) 成果と課題（○成果 ●課題）
- 実際に園を見学することで、年長児に対する認知を改めることができた。入学前にどのような園生活や活動を経験し、どんな力を付けてきているのかを確認できたことにより、小学校の教育活動における指導の参考になった。
- 書面や口頭での報告は行ったが、実際に見学して肌で感じることで得られる学びが多かったため、次年度以降、全職員が参観できるように計画したい。

<実践事例2> 年長児と1年生の交流会「まっているねの会」

- (1) 日時・会場・参加者

①12月15日(月) 10:15～11:45 小中台小学校(1年生133名 職員5名)
園生幼稚園(年長児53名 職員5名) いなげこどもの木保育園(年長児3名 職員2名)
KORU保育園(年長児11名 職員2名) 稲毛保育園(年長児31名 職員3名)
ひだまり保育園(年長児11名 職員3名) ししの子保育園(年長児11名 職員2名)
キートスチャイルドケア園生町(年長児11名 職員2名)

② 1月13日(火) 10:30~11:30 小中台南小学校(1年生95人 職員4人)

小中台幼稚園(年長児67名 職員6名) チャイルドガーデン保育園(年長児29名 職員3名)

(3) 活動内容

①活動のねらい

- 来年度就学予定の年長児と交流することで、上級生になるという自覚と、相手を思いやる心、新1年生を迎えようとする気持ちを醸成する。(児童)
- 1年生との交流を通して親睦を深め、入学への期待と安心感を高める。(年長児)



【「まっているねの会」の様子】

②活動の内容(ア~エは小中台小 オ~キは小中台南小)

- ア 秋の自然物を使って作ったおもちゃを年長児にプレゼントする。
- イ 秋の自然物を使って作ったおもちゃの遊び方を教えたり、一緒に遊んだりする。
- ウ ランドセルを年長児に背負ってもらい、校舎の中を案内する。
- エ 普段使っている算数セットを使用して、すごろくやおはじきなどで一緒に遊ぶ。
- オ 年長児に1年生の教室の席に座ってもらい、実際に使う教科書やノートを見せる。
- カ 教科書をなど入れたランドセルを背負ってもらう。校歌を披露する。
- キ 年長児とペアになり、手を繋いで校舎内を案内する。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

- 年長児に楽しんでもらいことを話し合ったことで、主体的に活動するにつながり、上級生への意識の向上が見られた。
- 年長児の実態を把握することで、次年度の見通しがもてた。
- 小中台小は、入学してくる年長児の園の数が40以上あるため、年度によってどこの園と交流を行うかの調整が難しい。
- 小中台南小は、例年同じ園と交流しているため、交流していない園に対して、自由参観期間を設けて学校を少しでも体験してもらうなどの工夫が必要である。



【教科書やノートを見る
年長児と説明する1年生】

4 成果と今後の課題

(1) 成果

- 交流会を設けることは、子供たち(年長児や1年生)にとって、自らの成長や進級への自覚を深めるのに効果的であった。年長児にとっては、小学校生活を知る機会にもなった。
- 関係機関への職員の見学(今回は小学校が幼稚園と保育園を見学)は、子供たちの成長を継続して捉えたり、そこで行われている教育内容や支援を知ったりできる良い学びの場となった。また、その後の自身の指導に生かそうという職員の意識の向上につながった。

(2) 課題

- 幼・保・こ・小の円滑な接続を保護者の視点からも考えるというテーマに迫る取組を実現できなかった。今後行われる入学説明会で、園生活との違いを念頭に置いて説明をしていくことが大切だと考える。また、年長児の保護者の質問や相談に誠実に対応したい。
- 関係機関への見学を、一方側からだけでなく互いに行った方が、相互理解がより深まると考える。そのためにも、早期の段階で教育計画を立て、全職員で共有する必要がある。

若葉区

1 幹事校 千葉市立千城台東小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携目指して
～教職員の相互理解を基盤とした、子どもたちの豊かな交流を～

2 協議会

- (1) 日時・会場 6月23日(月) 於：千城台東小学校
- (2) 参加者 千城台東小学校2名 千城台みらい小学校2名 へいわ幼稚園2名
千城東幼稚園1名 ちしろ保育園1名 千城台東認定こども園1名
- (3) 協議内容
- ① 各園、各校のこれまでの交流等における取組について
 - ② 今後の活動、交流の方向性について
 - ③ 具体的な交流時期等の検討・調整

3 実践事例

<実践事例1> 教職員による参観、意見交換会

- (1) 日時・会場
- ① 7月17日(木) 於：千城台東小学校 13:00～14:30
 - ② 7月22日(火) 於：千城東幼稚園 10:00～10:40
 - ③ 7月28日(月) 於：ちしろ保育園 10:00～11:00
 - ④ 11月12日(水) 於：へいわ幼稚園 9:00～12:30
- (2) 参加者
- ①へいわ幼稚園(職員 8名) 千城台東小学校(職員 4名)
 - ②千城台東小学校(職員 10名) 千城東幼稚園(職員 3名)
 - ③千城台東小学校(職員 8名) ちしろ保育園(職員 1名)
 - ④千城台東小学校(職員 4名) が千葉市幼稚園教育研究会に参加

(3) 活動内容

①活動のねらい

- ア 各幼児教育施設と小学校の指導観等相互理解を深め、接続期の連続性を高める。
- イ 職員間の意見交換を通して、連携・交流の在り方を協議し、今後の実践につなげる。

②活動の内容

- ア 小学校への参観による「学びの姿」の共有。
- イ 幼児教育施設への保育参観による「育ちの基盤」の理解。
- ウ 参観後の双方向の意見交換による「接続期の課題」の共有。
- エ 今後の連携・交流の具体案の検討と共通理解の形成。



【「ちしろ保育園」参観の様子】

(4) 成果と課題(成果○、課題●)

○各幼児教育施設での教育・保育の実態理解の深化

- ・各幼児教育施設への参観を通して、発達段階に応じた関わり方や環境構成の工夫など、多くの学びや気づきが得られた。また、小学校職員は自校の授業改善や日常の指導に生かせる視点を獲得ことができ、各施設職員が互いの専門性を理解する機会となった。

○連携推進に向けた具体的な方向性の共有

- ・連携推進に向けた具体的な方向性が共有され、職員が施設間で連携を強化しつつ、各幼

児教育施設と小学校における教育観を共通理解としてもつことの重要性が明確になった。また、幼児期から育まれる自立性や社会性を小学校教育へ円滑につなげる視点が整理され、各幼児教育施設での実践を新入生指導や学級経営に生かしていく必要性について、職員間で認識をそろえることができた。

●交流の機会・時間確保と連携体制の一層の整備

- ・職員の業務多忙や日程調整の難しさから、十分な参観機会や意見交換の時間を確保しにくい場面があった。継続的な連携を進めるためには、年間計画への位置付けや役割分担の明確化など、体制面の整備・調整が求められる。

<実践事例2> 保育所職員と年長児の保護者と懇談会

(1) 日時・会場 12月3日(水) 於：千城台東認定こども園 16:30~17:30

(2) 参加者 千城台東認定こども園：職員8名 保護者9名

(3) 懇談会のねらい

一人一人の年長児が安心して小学校生活を開始できるように必要な配慮や支援について共有し、不安に思っていることを解消していく。



【懇談会の様子】

(4) 成果と課題 (成果○ 課題●)

○入学後の学校生活を具体的に知ることによって、保護者の漠然とした不安が軽減された。また、配慮や支援について事前に相談でき、安心して就学準備を進める機会となった。

●保護者ごとに相談内容や不安の程度に差があり、懇談会だけでは十分に対応しきれない面があった。今後は個別相談等、丁寧な支援体制の工夫が必要である。

●各幼児教育施設・保護者・小学校で大切にしている視点に違いがあり、共通理解が難しい。小学校側が幼児期の育ちを理解し、柔軟に受け止める意識の向上が求められる。

<その他の実践>

- ・教職員による図書室の紹介と読み聞かせ、体育館やグラウンドで自由遊び
- ・特別支援学級でレク大会(特別支援学級の児童がレクのルールを説明)
- ・幼稚園の行事に参加(もちつき体験、お相撲さんと遊ぶ体験)
- ・いくつかの幼稚園、保育所と1年生や5年生が交流会・学校探検を行った。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

○各幼児教育施設と小学校の双方が、子供の理解と教育接続について新たな視点を共有し入学期の連携強化に向けた具体的方向性を見いだす機会となった。

○1年生や5年生が年長児への関わりを通して「思いやり・主体性・安全配慮」を伴った支援力を高め、来年度の新入生支援につながる実践的な経験を積むことができた。

○年長児が小学校の環境や年上の児童に接することで、入学への不安が軽減され、小学校への期待感や安心感が高まった。

(2) 課題

●交流活動が単発に終わりやすく、継続的・体系的な接続カリキュラムとしての位置付けが十分でないため、年間を通じた組織的な取り組みや成果の蓄積に課題がある。

●年長児の発達段階や小学生の個人差、各幼児教育施設の教育活動の違いを踏まえた活動設計や役割分担が難しく、双方にとって最適な交流内容の精選や支援体制の構築に課題がある。

緑区

1 幹事校 千葉市立椎名小学校

幼・保・こ・小の望ましい交流と連携を目指して
～円滑な接続を実現するために～

2 協議会

(1) 日時・会場 7月10日(木) 於：椎名小学校

(2) 参加者 椎名小学校1名 扇田小学校1名
ふたば保育園1名 グレース保育園1名

(3) 協議内容

- ①幼・保・こ・小関連教育の趣旨と概要についての共通理解とテーマの決定
- ②幼・保・こ・小連携の現状と課題について
- ③今年度の取組と実施計画について
- ④接続期カリキュラムによる連携(学びの連続性)について
- ⑤家庭との連携(学校生活の見通し・不安の解消)について

3 実践事例

<実践事例1> ふたば保育園を招いての交流会

(1) 日時・会場 11月27日(木) 於：椎名小学校
9:30~11:00

(2) 参加者 椎名小学校1年生(児童17名 職員2人)
ふたば保育園(年長児24名 職員4人)



【「葉っぱでお絵かきコーナー」の様子】

(3) 活動内容

①活動のねらい

- 1年生としては、年下の友達に思いやりの気持ちを持ち、相手に合わせた接し方をする
ことができる。
- 1年生としては、協力し合い、楽しく遊ぶことができる。
- 年長児としては、小学校を見学することで、小学校生活への期待と意欲を深める。

②活動の内容

ア はじめの会

イ 学校案内

- ・1年生と年長児がペアになり、1年生が校舎内を案内する。

ウ みんなで あきを たのしもう

- ・1年生が作ったおもちゃで、年長児と一緒に遊ぶ。

(どんぐりやまつぼっくりのおもちゃコーナー、葉っぱでお絵かきコーナーなど)

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

- 年長児に遊んでもらうという目標を設定して学習を進めることで、ねらいを明確にして取り組む姿が見られた。
- 1年生は「教える側」になることで、自分の成長を実感したり、思いやりの気持ちをもったりすることができた。
- 1年生にも年長児にも成長の個人差が大きく、関わり方に戸惑う場面が見られた。事前の

打合せで、細かい点を共有することが必要である。

<実践事例2>

(1) 日時・会場 12月12日(金) 於：扇田小学校

9:15~11:15

(2) 参加者 扇田小学校1年生(児童 31名 職員2名)

キートスチャイルドケアおゆみ野南 (年長児15名 職員2名)

グレース保育園 (年長児23名 職員2名)

(3) 活動内容

①活動のねらい

○年長児と1年生と一緒に遊ぶ機会を設け、小学生が年長児を通して思いやりを育んだり、園児が入学への期待を高めたりする。

②活動の内容

ア はじめの会

イ 学校案内

・1年生と年長児がペアになり、校舎内を案内する。

ウ 秋遊び

・1年生が生活科の学習で作ったおもちゃを使って、年長児と一緒に遊ぶ。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○年長児は会を通して、学校の様子を知ることができた。遊びを通して楽しんだことで、これからの学校生活への期待を高めることができた。

○1年生は、教えたり案内したりすることで、思いやりをもって接することができた。

●インフルエンザ等の感染症により交流が難しい時期になるので、実施時期の検討が必要である。

●保育園等とトイレの約束などの違いがあり、戸惑う場面があった。事前の打合せで、細かい点を共有することが必要であった。

4 成果と今後の課題

(1) 成果

○年長児が小学校の環境や生活に触れることで、入学への不安が和らぎ、期待や安心感をもって入学できる。

○異年齢で関わることにより、思いやりや相手の気持ちを考える力、聞く・伝える力などが育まれる。

○小学校と幼児教育施設の職員が、お互いの教育方針や子供に対する向き合い方を共有したことで、自校の指導内容を振り返るきっかけとなった。

(2) 課題

●年に1~2回の交流活動にとどまる場合があるため、継続的な関係づくりや深い学びにつながるよう今後も努めていきたい。

●交流活動を実施する場合、実施時期や内容を検討するなど、計画・打合せ・当日の対応等時間と労力の負担が大きくなるようにしていくことが必要である。

美浜区

1 幹事校 千葉市立稲毛第二小学校

幼・保・こ・小のよりよい交流と連携の在り方
～職員同士や児童・幼児の相互理解を築く交流を目指して～

2 協議会

- (1) 日時・会場 7月4日(金) 於：稲毛第二小学校
(2) 参加者 真砂第五小学校2名 稲毛第二小学校2名 若梅こども園1名
真砂幼稚園1名 稲毛海岸保育所2名
(3) 協議内容
①幼・保・こ・小関連教育推進の趣旨と概要 ②今年度のテーマについての確認
③活動内容について ④報告書作成について ⑤情報交換 ⑥実施計画等についての打合せ

3 実践事例

<実践事例1> 幼稚園・こども園職員の小学校参観

- (1) 日時・会場 7月17日(木) 11:40~12:40 於：真砂第五小学校
(2) 参加者 真砂幼稚園5名 若梅こども園2名
(3) 活動内容

①活動のねらい

卒園児の様子を参観し、幼児期の教育が小学校生活にどのようなつながっているかを確認する。1年生の給食指導の実際を知り、就学前に身に付けておくべき生活習慣や態度の育成に役立てる。



【1年生の配膳の様子】

②活動内容

配膳→喫食→片付けの流れを参観し、小学校の給食指導と時間管理の様子を確認する。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

- 「座って話を聞く」「時間を意識して食べる」といった、就学に向けて園での生活で意識すべき点が具体的になり、共通理解が図れた。

<実践事例2> 小学校職員による幼稚園・こども園参観

- (1) 日時・会場 11月12日(水) 10:40~11:20 於：真砂幼稚園
12月16日(火) 11:20~12:00 於：若梅こども園
(2) 参加者 真砂第五小学校3名(教頭、教務主任、1年生担任)

(3) 活動内容

①活動のねらい

幼児教育における、環境構成や支援の在り方について学ぶ。園ごとの特色や教育方針を理解し、小学校での受け入れ体制や学級経営の参考とする。

②活動の内容

- ア 幼稚園教育研究会に参加し、幼児の活動を観察する。園長の教育方針の説明を聞く。
イ こども園での体育遊びを参観し、幼児の運動能力や身体的な発達段階を確認する。給食の時間を参観し、配膳の仕方や食事のマナー、職員の関わり方を観察する。

(4) 成果と課題(成果○ 課題●)

- 園の参観を通して、遊びの中に「思考力・判断力・表現力等」の芽生えがあることを再認識できた。小学校教育との連続性を意識した指導の重要性を職員間で共有できた。

- 園によって一日のタイムスケジュールや指導の重点が異なるため、多様な園から来る新入生に対し、どのように支援していくかが検討事項として挙げた。

<実践事例3> 稲毛第二小職員の稲毛海岸保育所内研修への参加

- (1) 日時・会場 7月23日(水) 17:00~18:15 於: 稲毛海岸保育所
- (2) 参加者 稲毛第二小学校6名(教務主任、1年生担任、2年生担任)
- (3) 活動内容

①活動のねらい

保育所で行われている鬼遊びの行い方や手立てを学び、小学校での活動や指導に生かす。

②活動の内容

保育所で楽しめる鬼遊びと遊び方を年齢別(3歳未満児向け・3~5歳児向け)ごとに紹介した。子供役と職員役に分かれて実践を行い、声かけや支援の仕方を確認した。

- (4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○子供同士で考えることを大切にしたり、見守る時間も取ったりする等、協同性や思考力に関して小学校と共通する部分があり、教材や指導に取り入れられるものが多くあった。

<実践事例4> 年長児と1年生の秋祭り交流会

- (1) 日時・会場 11月18日(火) 9:20~11:00 於: 稲毛第二小学校1年生教室
- (2) 参加者 稲毛第二小学校1年生81名 稲毛海岸保育所(年長児31名 職員4名)
- (3) 活動内容

①活動のねらい

1年生が計画・準備した秋のお店屋さんを紹介する活動を通して、上級生としての自覚を高め、年長児は入学前に小学校の様子を知る。

②活動の内容

ア 1年生が秋のお店屋さんを開き、年長児に秋の遊びを教える。

イ 1年生と年長児でペアをつくり、一緒にお店を回りながら小学校を案内する。



【秋の遊びを行う様子】

- (4) 成果と課題(成果○ 課題●)

○1年生は、年長児に秋の遊びを教えたり説明したりする活動を通して、年長児に向けた話し方を学び、上級生としての自覚が高まった。

○年長児は、生活科の学習活動を小学生と関わることを通して体験することができ、小学校入学を楽しみにする気持ちを高められた。

4 成果と今後の課題

- (1) 成果

○職員同士の交流から、子供の育ててほしい姿や指導・支援の仕方等について、幼・保・こ・小で共通点やつながる部分が多くあることがわかり、相互理解を図ることができた。

○子供同士の交流から、1年生は上級生としての自覚を高め、年長児は小学校入学に対する不安感を軽減させるなど、相互にとって次年度に向けた効果的な活動を行うことができた。

- (2) 課題

●職員の交流は、一部の職員中心の参加となったため、学校全体としての理解を深めるために、参観内容を効果的に還元・共有する工夫が必要である。

●参観後の協議時間を十分に確保し、指導方法の違いや接続の工夫について意見交換をする必要がある。

IV 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会の成果と課題

1 成果

(1) 教職員同士の主な交流の整理

行政区	活動内容	参加者	概要
中央区	相互参観・懇談会	小・保職員	1・2年生の授業参観、保育所の保育見学
花見川区	相互参観・意見交換	小・幼・保職員	登園から給食までの様子を参観、アプローチカリキュラム等の共有
稲毛区	フレッシュ研による園参観	小職員(若手)	幼児教育の環境づくりや、発達段階に応じた支援方法を学ぶ
若葉区	意見交換会・保護者懇談会	小・幼・保・保護者	接続期の課題共有、保護者の不安解消のための就学相談
緑区	接続期カリキュラム協議	小・保職員	教育方針の共有、家庭との連携(学校生活の見通し)についての協議
美浜区	給食参観・保育所内研修	小・幼・こ・保職員	配膳や食事マナーの参観、保育所発案の「鬼遊び」の手立てを学ぶ研修

(2) 児童同士及び教職員同士等の交流活動の成果の整理

交流活動後の様子や振り返りから、年長児、児童、教職員の観点から具体的に整理する。

年長児	<p>○就学への期待感と不安の解消、憧れの意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業や施設を実際に目にし、1年生と一緒に活動することで、「小学校は楽しいところ」という具体的なイメージをもつことにつながった。特に、ランドセル体験や学校探検を通して、入学に対する心理的ハードルが大幅に下がった様子が見られた。 ・小学生の優しく頼もしい姿に触れることで、「自分もお兄さん、お姉さんのようになりたい」という規範意識や小学校生活への意欲が醸成された。
児童	<p>○自己有用感や責任感の向上、生活科等への学びの深まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児を案内したり、遊びを教えたりする経験を通じ、上級生としての自覚が芽生えた。自分の成長を再確認するとともに、相手の立場に立って考える思いやりの心が育まれた。 ・年長児に学校のことや遊びについて教えるために、自分たちの学習内容や学校生活を振り返る活動が、児童自身の「思考力・判断力・表現力」につながる貴重な学習機会となった。
教職員	<p>○相互理解や指導の連続性、具体的支援策等の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互参観や合同研修を通じ、幼児期の「遊びを通じた学び」が小学校の「各教科の学び」にどう繋がっているか、具体的場面で理解が進んだ。特に、園での「思考力の芽生え」を小学校のスタートカリキュラムに活かす視点を共有することができた。 ・個別の配慮が必要な児童・年長児への関わり方について、校種を越えた情報交換が行われ、切れ目ない支援体制の構築につながることを期待される。

2 課題

(1) 組織的・継続的な推進体制の確立

- ・交流が一部の担当者や低学年担任、年長児担任のみに留まってしまいう現状がある。学校・園全体で接続意識を高めるため、できるだけ多くの職員が参観や協議に参画できる機会の設定や体制の整備が必要である。
- ・年度ごとに担当者が替わっても、これまでの実践が途切れることなく継承されるよう、各区・各中学校区での連携の取組や積み重ねが共有されるようにしていく必要がある。

(2) 接続の質の深まりと評価の工夫

- ・交流活動を、生活科や特別活動の単元の中にどのように位置付けて、教育的効果を高めていくかという「接続の質」の向上につなげていく必要がある。園での活動や学びを小学校のどの教科のどの単元につなげるかという、より詳細な「接続期のカリキュラム」の作成・活用が必要である。
- ・近隣に複数の園・校が存在する場合、特定の組み合わせだけでなく、地域内のなるべく多くの幼児教育施設が参画できる機会を設定することが望ましいが、時間や立地の面など課題も多い。

3 今後の交流活動充実に向けた可能性の示唆

本年度の大きな特徴は、特定の行事だけでなく、職員同士の「相互参観」や「合同研修」が積極的に行われたことにある。小学校教諭が幼児教育施設の自由遊びの中にある学びを参観したり、園職員が小学校の授業での子供の姿を見たりできたことで、校種間の「学びの隔たり」が「成長の接続」を見通した相互理解につながる様子が見られた。

また、職員間の心理的距離の短縮が、交流の「日常化」につながることで期待される。急な連絡調整や些細な相談が日常的に行えるような関係性を築いていくことで、形式的な連携を越えた実質的な接続教育の基盤となることで期待される。

さらに今後は、この関係性を土台として、「お互いを知るための交流」から、「資質・能力を育むためのカリキュラムの共同編成」へつながっていく可能性を示唆している。ICTを活用した日常的な活動の共有や、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの一体的な運用など、校種間の連続性をより体系的に構築していく段階に移行していきることが期待される。

4 令和8年度の推進指定校

○は幹事校

行政区	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	計
推進指定校	○大巖寺小 生浜小	○花園小 朝日ヶ丘小	○草野小 柏台小	○大宮小 白井小	○おゆみ野南小 金沢小	○美浜打瀬小 海浜打瀬小	12校

V 令和7年度 千葉市幼・保・こ・小関連教育推進協議会委員一覧

1 協議会委員

№	氏名	所属	職名	備考
1	伊東 文栄	新宿保育所	所長	千葉市保育所長会議長
2	大森 康雄	今井保育園	副園長	千葉市民間保育園協議会会長
3	岸 憲秀	羔幼稚園	園長	千葉市幼稚園協会会長
4	遊間 京子	千葉市立畑小学校	校長	校長会幼・保・こ・小関連教育推進協議会担当
5	上田 昌宏	幼児教育保育部幼保支援課	課長	こども未来局関係委員
6	渡邊かおり	幼児教育保育部幼保指導課	保育所指導担当課長	こども未来局関係委員
7	小石 伸一	学校教育部教育指導課	課長	市教育委員会関係委員

2 推進指定校における幹事校長

区名	学校名	校長名	区名	学校名	校長名
中央	寒川小学校	渡邊 智之	若葉	千城台東小学校	川崎 秀明
花見川	畑小学校	遊間 京子	緑	椎名小学校	林 圭央理
稲毛	小中台南小学校	田島 明美	美浜	稲毛第二小学校	長谷川京子

3 事務局

手塚 祐嗣	学校教育部教育改革推進課	指導主事
-------	--------------	------